



紫式部日記註釋

一



松の屋藤井大人
清水宣昭大人
著述

紫式部日記註釋

東京

光文書房

紫式部日記釋入



あまのうららとらるる書こいあまのうららにけり
あまのうららとらるる書こいあまのうららにけり
あまのうららとらるる書こいあまのうららにけり
あまのうららとらるる書こいあまのうららにけり
あまのうららとらるる書こいあまのうららにけり
あまのうららとらるる書こいあまのうららにけり
あまのうららとらるる書こいあまのうららにけり
あまのうららとらるる書こいあまのうららにけり
あまのうららとらるる書こいあまのうららにけり
あまのうららとらるる書こいあまのうららにけり

一と利は信はくちりしむるもあはれなるは
とく人あはれなるもあはれなるは
うと久きをゆのれもあはれなるは
よとくしりもあはれなるは
このあはれなるは回しつるもあはれなるは
かとは見しつるもあはれなるは
あはれなるもあはれなるは

か
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは

えんなる中にあはれさやうまゝ、きんにうたれたる後継の声も、
うらあはれまゝとなく、不断の山溪は、中流、序、姓、のほとを
い、祈のためなく――
やうくす――風のうらあはれまゝの、きんせぬ水のおとをひよま
らう、海うはらう

やうく、やの音、後よりめさうたかき、意は、シ、ガ、イ、ク、ニ、ナ、リ、まゝのは、
イツモノなり、水の音、たれそ、うみのや、水の音、なく――やうくす
――と、うらあはれまゝの、きんせぬ水のおとをひよま、
も、はらう、うらあはれまゝの、きんせぬ水のおとをひよま、
きんせぬ水のおとをひよま、となく

とのえに

に、まゝ、あはれまゝ、うらあはれまゝ、きんせぬ水のおとをひよま、
い、な、や、うらあはれまゝ、うらあはれまゝ、きんせぬ水のおとをひよま、
に、まゝ、あはれまゝ、うらあはれまゝ、きんせぬ水のおとをひよま、
あ、の、ま、は、うらあはれまゝ、うらあはれまゝ、きんせぬ水のおとをひよま、
の、ま、は、うらあはれまゝ、うらあはれまゝ、きんせぬ水のおとをひよま、
意、な、うらあはれまゝ、うらあはれまゝ、きんせぬ水のおとをひよま、
ま、え、な、うらあはれまゝ、うらあはれまゝ、きんせぬ水のおとをひよま、
ま、い、清、水、を、ま、て、うらあはれまゝ、うらあはれまゝ、きんせぬ水のおとをひよま

い、あ、うらあはれまゝ、うらあはれまゝ、きんせぬ水のおとをひよま

めて法住ちの宗主ハ馬場庵に庵らし一の僧おえ。文庵をよにと
 けつをなう。まてなをよとけつへ帰れり。浄教ハ法衣なり。すうた
 すとてのまてそあをれり。又ちよにハ。はよを帰れり。にまあ
 うま。ハ。えり。又帰れり。申えく。一。さ。え。ニ。サイ。ラ。ニ。キ。を。り。う。う。え。ハ。
 庵のさなる法庵の格なり。あをれり。とんふふくめて感ずるもあ
 るをり。い。も。勢。き。の。声。なり。ち。ち。ち。ち。ハ。お。の。ち。格。を。え。ん。か。へ。一
 さい。さい。あ。さ。う。と。大。お。と。く。を。う。や。ま。ひ。て。お。一。や。こ。う。め。し。う。
 清禅一
 大威徳ハ右のふ壇のうちの一軒なり。このまをり。まて。この阿闍
 梨の腰を屈めて礼をな。なるなり
 人こまわりつれば。おとあけぬ

六の人は。おに。お。官。は。い。ま。は。ち。う。い。一。と。あ。の。お。官。と。あ。お。ま。の。お。官
 ま。ま。を。り。ま。の。れ。これの。お。官。ま。の。お。官。へ。ま。あ。た。ら。に。東。の。あ。け。た。の。を
 一。よ。う。の。つ。ま。ま。は。お。か。持。の。僧。よ。を。ま。り。な。れ。と。これ。を。あ。に。り
 へ。り。ま。と。お。れ。を。あ。を。へ。り。ま。一。と。お。れ。を。ま。り。て。は。い。ひ。ま。ま。へ。か。し。と。ま
 わ。り。と。は。い。ま。一。と。お。れ。を。ま。り

きた庵のた。ちのつ。け。ま。に。お。ま。の。せ。は。け。の。ち。ま。う。た。あ。一。た。の。あ。も
 せ。お。ち。ぬ。小。庵。あ。う。を。ま。り。て。ま。お。ど。ん。か。一。と。や。ま。れ。ま。う。を。ま
 ぬ。一
 局は。お。ち。ぬ。ち。ま。う。ち。ま。う。た。は。ボ。ウ。ツ。と。な。る。七。月。の。あ。一。た
 の。ま。ま。を。り。ま。お。ち。ぬ。小。庵。は。東。の。明。の。の。ま。り。ま。や。れ。け。ま。う。を。ま

はうとまじりてゑんたらなは。後清あまひい。まじりてゑんたらなま。産をあ
まをく。い。ろん。一。誰。少。を。う。と。あ。う。ら。れ。う。た。一。う。ん。は。て。刀。祢
と。う。う。は。古。事。記。傳。卷。三。に。妻。一。う。を。た。う。この。ほ。う。意。威。集。に。誰。人
い。う。あ。れ。た。ま。ぬ。に。人。あ。ひ。ひ。う。誰。人。は。す。ま。を。け。こ。も。む。な。一。ま。を。ま。や
と。い。う。一。祢。の。め。と。子。た。ち。と。も。な。う。後。の。考。へ。を。う。う。降。云。く。今。世。に。
名。を。え。と。う。ま。の。い。名。を。と。抗。と。う。う。と。の。ゆ。き。ひ。か。う。これ。え。め。の。ま。う。
い。う。ま。ぬ。に。た。ま。を。と。う。と。れ。と。ま。古。書。の。ま。名。を。え。と。あ。ん。お。は。い。う。
な。う。と。も。と。う。え。う。う。一。これ。お。か。れ。う。て。あ。う。は。大。う。さ。か。う。や。う。
た。ま。れ。乃。あ。ま。ひ。い。は。な。う。一。と。ま。ぬ。う。う。い。海。を。う。奇。い。今。極。を。と
い。一。ん。を。一。ま。い。を。く。い。て。さ。た。う。一。種。の。奇。な。う。そ。奇。は。え。一。め。う。り。七。五。

七五とつきて。平家おれといふ書よ。あまをえたり。たしく。ハフエテト
なり

齊信卿 實成卿 濟政
あまをえたり。い。ん。守。ね。中。お。種。房。云。清。我。み。の。お。ね。た。う。海。を。な。う。て。
あ。ま。の。い。は。ま。を。あ。う。

あまをえたり。い。ん。守。ね。中。お。種。房。云。清。我。み。の。お。ね。た。う。海。を。な。う。て。
あ。ま。の。い。は。ま。を。あ。う。
あ。ま。を。え。たり。い。ん。守。ね。に。左。右。は。あ。う。ま。ま。は。い。守。ね。中。お。種。房。と。い。ふ。こ。と。う。
な。う。を。う。く。い。ん。守。ね。に。誰。人。と。し。右。を。お。監。り。け。た。う。を。あ。ま。の。誰。人。の
お。う。り。後。世。に。正。位。下。の。お。階。一。た。う。を。四。位。の。正。下。ま。て。の。ほ。う。一。ま。を。
い。へ。と。甲。一。く。い。ん。守。の。こ。ろ。の。を。う。と。ま。ま。海。な。う。み。の。お。ね。い。美。濃。守。に
て。お。ね。を。け。た。う。を。い。ふ。な。う。一。な。う。て。い。ん。守。の。人。と。を。アイ。テ。に。一。て。道。

長谷の越ひ流しなり。

経房。新平による。信平はと公卿補任作経房。

下皆効之と云ひ

日侍とのいあぢひは。左おほすや。やあ。んせはを流えに

日侍との越ひをよよはつたりあそひとあううとて。キト。たつ越ひを

と。流しあ。したる人のなるたえをいおこ。いつ。まか。つ。つ。いけをい

さ。り。う。て。そのころは。志ゆやうなることなり

い。わ。い。里。長。を。て。根。里。草。に。ま。う。て。わ。る。と。な。う。ん。の。は。お。い。お。こ。一

係。れ。り。な。る。た。え。い。里。草。に。あ。り。て。中。文。草。仕。の。後。言。な。り。志。あ。や。う。な。る

と。い。は。上。よ。ふ。あ。や。う。なる。夕。草。を。い。る。を。い。けて。この。い。を。ま。い。し。あ。や。う。な

る。と。な。う。と。な。う。と。い。は。ま。い。し。あ。や。う。な。る。この。ころ。信。平。保。水。り。い。て

新平による

女六のいなきさうのあそませまて。ん。は。ま。い。し。あ。や。う。な。る。と。い。は。ま。い。し。あ。や。う。な

あ。ゆ。つ。と。い。たり

は。薰。物。を。烟。合。て。い。ん。あ。と。つ。ま。い。な。り。合。香。の。方。を。と。何。何。抄。抄。に。あ。い。

この。ま。に。薰。物。合。せ。の。と。ま。あ。り。ま。う。り。は。合。香。を。ま。う。む。さ。な。り

う。へ。う。お。ま。い。し。あ。や。う。な。る。お。ま。い。し。あ。や。う。な。る。の。お。ま。い。し。あ。や。う。な。る。の。お。ま。い。し。あ。や。う。な

ま。い。し。あ。や。う。な。る。の。お。ま。い。し。あ。や。う。な。る。の。お。ま。い。し。あ。や。う。な。る。の。お。ま。い。し。あ。や。う。な

ま。い。し。あ。や。う。な。る。の。お。ま。い。し。あ。や。う。な。る。の。お。ま。い。し。あ。や。う。な。る。の。お。ま。い。し。あ。や。う。な

と。ら。う。た。け。を。あ。め。り。

う。へ。う。お。ま。い。し。あ。や。う。な。る。お。ま。い。し。あ。や。う。な。る。お。ま。い。し。あ。や。う。な。る。お。ま。い。し。あ。や。う。な

おまへの中宮は月をうらなはしめてさうにさしほつた

おまへをほろひつるほろくおまへ大納言をほろひ

おまへ

おまへをヨウサリとせりておまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

おまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

おまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

おまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

おまへをほろひつるおまへをほろひつる

秘抄に九禁中着湯卷上臈一人典侍一人也。是候御湯殿故也。な
とそそたり

まは度りさきより結ひていそりこ。少ね表とりのうら。まのなれど
アていそにゆわ

まの表まなり。とりのうら。造つた。虎の尻をへし。虎は。まはめてたけ
くこそき。獸なれば。千をひをらためをへし。御産部類源礼に皇子令

渡御浴殿給々御匣殿持屏角虎頭屏角と虎頭とハニ種ナリ

うさぬいさみのつれをへし。まは。ふらをせめて。にほろみりすうめにうたれ
り。こ。は。う。ほ。を。う。う。ま。を。ぬ。ひ。う。

す川の。ま。松の。実。を。へし。海船は。ま。を。短。小。大。船。小。ま。や。貝。を。と。を。お

りたる。文。を。と。あり。前後。を。と。と。ある。と。の。なり。大海の。す。め。ま。と。ハ。織

た。海船。を。と。の。を。ゆ。す。た。た。う。海。上。見。せ。た。を。い。ふ。こ。ハ。裳。の。腰。に。て。

羅に。度。糸。を。纏。た。た。なり。こ。ハ。ま。の。な。れ。し。の。子。面。なり。

少ね。表。は。林。の。草。村。て。う。と。う。な。と。を。ま。ろ。銀白て。は。う。う。あ。や。う。

たり。ね。を。の。は。う。う。あ。と。人。の。ふ。さ。く。へ。い。や。う。な。け。ま。ハ。こ。し。う。う。を。

ま。に。た。う。う。な。め。

少ね。表。の。ふ。を。脱。せ。う。又。背。を。ま。へ。う。織。お。は。後。う。と。ま。ま。

ま。の。お。ま。て。ま。信。ふ。あ。と。ま。は。結。さ。れ。け。を。う。ま。れ。え。う。け。う。あり。て。と。ま。

り。人。の。ふ。さ。と。は。限。り。あ。る。物。な。れ。え。我。の。海。お。は。う。と。ま。れ。え。な。り。

昨。き。て。う。と。う。と。う。と。中。考。の。う。な。文。ふ。こ。れ。う。れ。と。ま。を。た。う。を。蝶。と。ま。と。

かゝるといふ人かよれとまへにそありに蝶は使われとももの下くも
あつてとあふかまをたうの蝶をてたうとひひなせると世のまひひの
にけり文をてこれは中若乃信候なるを信もくふつはア一こは小
かゆまむものひさうたくと裳のこりに秋の暮村のあやをうあたらに
とひく蝶を向まうしてつうてはけさのひになをいといとつう一さ
まふなればまふたうづりにはをいひつうといふれたりまふかおまには
裳のまふのをいひたうやうなるる衣をいひはひ腕するや

屋のまんならふたとこよ源少雅通をとうちまををたけび一まこれ
たうらうちをうまんとあうまひはくへんちドのまうづごーんにまう
ひはふらあまめあまあまへけまはあまをはけてまうに人まう

ふたところ類の傍注に頼通教通とにうらまのこにあに名たり
陽師のするはやまひひてまうをまひせまふまうこーんは清陽
此方の禮身かううらまはむのまをう衣をはけて散糸をふせ
まふなり

文すむを^{博士}病人女ひるなりがらんのをとにたうて史記のくえをよむ
病人あて兵をうけたんなり史記の二卷は五帝本紀黃帝乃不を
こー御産部類註に卅日乙亥^マ藏人弁讀史記五帝本紀進
自本例一二尺許黃帝者少典之子姓公孫名曰軒轅生而神靈
弱而能言幼而徇齊長而敦敏成而聰明治五氣藝五種撫万
民諸侯咸尊軒轅為天子^{三編と名たりこの文のんふうてな}

一、此を序湯屋の儀式なり

つらうに人ふ位十人六位十人ふたなみふたをたれり

つらうに鳴弦して弓をひきて弦をたれとをり。これと序湯屋

の儀式なり。ふたなみふたは二部なり。はては鳴弦のしうくよたけくひく

しうくひく鳴弦して弓をひきて弦をたれとをり。これと序湯屋

に。早旦供御湯。之々藏人為鳴弦候戶外。之々次典侍取河藥

器抛板于時藏人鳴弦。是毎日每度事也。と云たり。こはち

なまにひつて

よはうの御湯とよとを。湯をうりてはかる。こはちを。いふこのは

うせいりやうそりせん。伊智さうもむとにのはうせと。まゐの孝經をへ

こはちの御湯に。朝の御湯屋のよのよめは脱ぎにや。又はあつと

りのとれ。得るを。あや。さう。い重々なり。朝夕あることなれを。孝

經を。天子章をへ。御産部類註に。予所讀書天子章。愛親

者。不敢惡於人。敬親者。不敢慢於人。德教加於百姓。刑于四海。

蓋天子之孝也。甫刑云。一人有慶。兆民賴之。之々讀書了退出三

と云たり

又たうらひは。史記の文帝に。これをもよむを。いふ

史記の文帝の事をよむこと。序湯屋に。これをもよむを。いふ

此黃帝天子章をよむ。いふこと。この外。礼記の中府篇。

ちるくに織ぬとまをいふをう。うるにくえ。たがズシテ名ニクキツトニナル
といふ意なり。まればちく。おすれ。たふんれ。つてえに
申すれぬ。ま。たをぬいた。う。ふた。海。し。はせて。たえ
ずぬ。ま。の。う。ま。に。う。ま。れ。た。う。ま。の。む。ま。の。の。い。ぬ。す。く。よ。に
一。う。は。ま。は。あ。や。う。す。ま。の。ま。一。た。ん。を。あ。う

を。徳。た。た。う。ぬ。う。く。し。ん。を。ま。に。い。ま。と。徳。ま。い。ぬ。ま。を。ひ。た
ハ。強。う。に。ま。く。く。月。に。た。つ。は。う。の。お。す。れ。を。せ。た。た。ぬ。く。え
ずぬ。ま。の。徳。あ。ま。の。徳。ま。を。ま。た。な。う。た。ま。う。い。は。笑。止。す。キ
ノ。ト。ク。と。い。ふ。意。を。う。う。ま。ぬ。え。た。う。ま。の。う。に。申。う。ま。ぬ。と。い。ひ。て。織。ぬ。と
い。は。た。う。ま。り。な。れ。と。意。を。か。と。し。て。あ。れ。表。意。に。あ。る。は。割。外。な。う。

一。む。ま。の。平。絹。を。う。す。ま。は。ぬ。ま。う。く。に。キ。ニ。と。う。る。意。ケ。コ。リ
か。る。意。を。う。う。ま。ぬ。い。し。と。う。は。ぬ。を。ひ。う。た。ぬ。一

あ。ま。の。ま。み。に。え。た。ま。く。く。う。や。ま。て。す。一。な。う。ぬ。ま。ぬ。一。た。う。ん
ま。あ。ま。の。文。う。ち。う。ま。と。一。て。い。ひ。あ。ま。せ。た。う。ま。を。ま。と。い。ひ。一
と。ま。よ。い。の。ほ。と。た。か。一。ま。ら。の。は。を。う。と。え。ら。ま。一。た。う。ん。の。の。ね。ま。い
た。れ。ぬ。ま。一。ま。ま。あ。う。ま。に。あ。え。け。

麻。の。海。を。あ。の。衣。の。う。海。と。同。一。ん。ま。を。う。ぬ。ぬ。い。ぬ。ま。を。う。ん。ま。あ。る。は。キ
モ。子。ノ。アル。か。う。が。文。は。信。文。を。う。一。ま。ま。い。え。幸。齡。を。う。た。か。一。ま。ら
ハ。幸。本。ま。に。こ。れ。は。二。の。ま。ら。の。ん。や。ま。ま。を。う。た。を。う。一。と。あ。る。二。の。ま。ら。ハ。次
乃。方。を。う。高。本。ま。に。こ。れ。ま。ら。を。よ。ら。一。と。い。と。あ。る。上。の。ま。ら。ハ。上。の

ふはくせう平のまゝとくたかなをうささる人のうたりにては—むさひつ
つおたりた—ふとえらひてゆり—まふをとおのほろとてふ
あつとをさす候をうさうとて—まへ—人をえさて経へ—を
ん—と—と—水へおたか—申—さほてえたり—
—をういふ春の後式のはか—まきまうをうはるうたはらぬ—を
えうて信膳の役を勤めさせ給ふ—ん—い—この信膳の役は
えうまけて髪上—なをえさかたもはららに—い—い—
—て—ん—い—と—い—まきまてうはらぬか—た—
は丁のひん—おとて二浦ううに—まよ—人おなみた—のまをい
おえおな—い—ざのれまの—^米女—と—い—か—る—産—ま—の—た—ふ—は—申—と

新へきてこれいひ—う—は—て—又—の—む—に—た—て—向—こ—と—つ—
に—い—か—う—げ—を—う—う—

えお—え—に—ん—う—ひ—あ—を—い—う—威儀序膳いふ春にあるとなく序身
影不憂—その役は—東女—ま—の—ま—わ—る—た—て—
の序盛をさへ—
あふらう清に月—ら—清—を—に—う—
ん—^司—の—女—官—の—ほ—と—あ—ぬ—を—う—

こく—まけ—う—う—
六年正月十九日祿法女官祿内侍所去々理髮六人
去々とらんたるこれち—一本に—あけ—
各六丈 縮二尺

にてかありのつぎうなるかと冷本をいさふ

關司

まうとつうはかたまりのぬれかやあしんおろろにはけりざきけりしつ楚

替

とろのえんはし替たはやくし替きふし替てん替のびん替し替たよ

れかちりしていさきなくれし替かたし替かたし替かたし替かたし替かたし替

ねろろにえあのお房たちのい替くは替き替け替し替た替に替く替て替こ

し替き替ふ替あ替へ替く替お替ち替やく替し替き替ふ替は替か替官替と替れ替髪替あ替けて替

ねろろのえんし替きた替き替ふ替の替儀替式替たち替て替た替く替し替き替ふ替を替い替入替宿替及替

は河海抄に書家の最下とあり 傳平ひんりの廊とに今義平

一平をきよ

おとのまかりとてくお房にほのむにひてたたりほけにま替く替と替る替こ替た

流中にきおほし替き替ふ替れ替お替の替ぬ替う替き替ぬ替を替し替ほ替ふ替の替こ替松替う替き替あ替は

いた替き替ふ替の替と替を替う替し替き替ふ替し替き替ふ替い替ち替の替く替う替き替れ替ぬ替と替う替せん替し替よ替

大式部陸奥守妻の官名宣旨の官名おてこれ殿の内には正任の女房なり

たゆみれ命輝い替き替ぬ替い替て替ぬ替れ替に替き替ぬ替を替あ替ら替う替の替て替ぬ替し替て替ぬ替と替あ替は

や大に海に替ほ替う替に替す替う替た替て替け替ち替え替ん替を替ぬ替ぬ替の替う替き替ぬ替や替に替ぬ替

ま替ふ替れ替は替も替お替す替き替ふ替し替と替は替せ替し替て替あ替る替を替ぬ替け替ち替え替ん替を替ぬ替

きはやうな けなうのやほし替い替え替ふ替く替う替ぬ替なり

糸内竹の替と替ふ替あ替ら替う替の替す替え替ぬ替を替た替て替な替し替は替ぬ替め替つ替ぬ替い替と替ら替も

松うえのよ替え替ひ替を替あ替ら替き替せ替た替る替ん替を替く替と替く替し替

あ替ら替う替の替し替ぬ替泥替な替し替し替は替溪替と替を替泥替して替す替て替松替う替枝替を替ぬ

えー

傍中に大を中をよひり公注をばなにとにすれ後一隊すあゆ
たの書にえきてそのまよりと名たきしはうくにきんてんをん
くひーたきり。あをばはがまにてまよふまいてんがうよだあー
はッレハッレニテカイテ。ゆつこの表にこーいん声つうひにすくはえ
いのーとなく。そめればサヤキなく。あをばはがまにてまよふま
数平にとりてよとくけり。てしーてにをばはがまにてまよふま
又の東月をねそくころはへをーねふ。まろ人ば。舟にみりてあま
ふ。もこををうよと。ねそく。子酒にけり。まねた。たふ。このぼと。ま
ひく。こ申

又の東月をねそくころはへをーねふ。まろ人ば。舟にみりてあま
ふ。もこををうよと。ねそく。子酒にけり。まねた。たふ。このぼと。ま
ひく。こ申

又の東月をねそくころはへをーねふ。まろ人ば。舟にみりてあま
ふ。もこををうよと。ねそく。子酒にけり。まねた。たふ。このぼと。ま
ひく。こ申

とらなす中はゆきと及ぬとをれおとしをききし。さきかきしにけいん
たく省きて書るまじきし。されいさしきゆきもをとは。えきまじつけ
らぬとをり

れほつたの事一よは。らのおれいど。えたらあのもくは。とけのうらよう。お
うせく。まのゆきを。まていつに。度上人。既たりを。うりて。うらうら。お
ほやけ。れろくは。大^大褂^褂。うらうら。ふく。ゆき。しは。なと。まじの。おほやけ。も。あへ

おほさのふい。こよの。ゆきを。青の。あさ。この。こと。も。あさ。うら。先口。は。て。お
儀式。に。用。し。と。なる。既。え。お。人。既。たり。へ。お。ほ。や。け。の。縁。の。内。裏。す。ゆき
縁。す。こ。し。は。い。さ。し。ゆき。を。装束。を。被^{カフ}け。と。お。し。と。同。し。と。に

て。は。さ。う。て。や。を。腰。に。さ。た。もの。を。れ。え。か。へ。お。ほ。や。け。も。ゆき。お。ほ。や。け。を
らぬ。定。ゆり。た。い。お。ほ。や。け。の。と。ゆき。を。か。へ。し。と。なる。お。ほ。や。け。の。縁

注小頼定道方とに

ゆちつけつらゆつら。糖^糖子^子。橋^橋三^三位^位の。わら。お。ま。い。の。お。ほ。や。け。に。た。り。ま。い
れ。ゆき。を。さ。さ。て。あ。ら。う。ま。の。お。ほ。や。け。を。か。へ。し。と。なる。や。を。さ。さ。に。や。又。は。こ
た。お。ほ。や。け。を。さ。さ。て。ゆき。を。か。へ。し。と。なる。は。え。ゆき。に

細長ハ河海抜に。幼少の。ま。ま。の。お。ほ。や。け。を。か。へ。し。と。なる。お。ほ。や。け。に。ゆき。を
か。へ。し。と。なる。を。い。れ。て。お。ほ。や。け。を。か。へ。し。と。なる。は。え。ゆき。に。ゆき
お。ほ。や。け。を。か。へ。し。と。なる。は。え。ゆき。に。ゆき

ゆきをささてゆきをかへしとに

たせ河海抄の文は九束にうすしをそに八つとんをた御
産部類源礼にと五日庚辰々早且撤御座並御几帳御屏風等
供尋常御装束公卿座屏風等同被立替とある六月あに
て皇子降候より廿八のときより三つにすれば河海抄の儀は
候うあらくねをそれも九にせ八にせうつにせしむくのみ向に
たひていそりたひめはつるきへ

頼通卿

九日の束はままたちまつる儀より後入る儀より一ひとよひにや
すゑなりぎにいとふたにいよつし一ひきの儀をそふそりち
てほくらかとまのときといふゆめうしうこゆにをうたをとう
ちてはまひつるにそりぬりせりけれ

いぬめうし古代ナラス茶やうをうちいでといふにすかといひ
てそりぬらうに厚おたをいふと仰しゆにや後をそこのふたに
あてにうちてたはともそなりあぬへしほらぬいあそま
そめたを違うてゆほちふとされるをいふうころけれといひ
あそまをいふゆめとそりぬらうをいふゆめとそりぬらう
うしをいふゆめとそりぬらうをいふゆめとそりぬらう
とあそまをいふゆめとそりぬらうをいふゆめとそりぬらう
をころしといふゆめとそりぬらう

朽木形

こよひにたせしむるゆめとそりぬらうをいふゆめとそりぬらう
たりゆめとそりぬらうをいふゆめとそりぬらう

こたして見たりをさる人のすまむにさるるをさるるに
とひく人のさるるにさるる

折る形の木丁は白木丁と建つれなすはれはまのまのさるる
一さるるの白装束をこひるにさるるをさるるにさるるは
カクユカニキなくをさるるには色マイテなくさるるをさるる透
とほりて表にさるる法をさるるにさるるをさるるにさるるは
さるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
にさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
とのねさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
もさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに

さるるにさるるにさるるに

十月十日のさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
さるるの東中にはさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
さるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
さるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに

さるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
にさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
さるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
おほいさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
さるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに

